

防災ラジオドラマ「つくば 吾妻小学校地震編 エピソード②」

テーマ つくば市内の共働き夫婦への児童引き渡し

登場人物（声優）

お爺さん・・・孫の木村次郎君を連れて帰ろうとする高齢の男性（大久保副校長）

教務主任（根本先生）

担任先生B・・・廣瀬先生（廣瀬先生）

ナレーション「夏休み直前、つくば市の吾妻小学校の先生たちは、1時間目の授業中に起きた直下型地震の対応に追われていた。」

担任先生B 「教務主任、ちよつとお時間とれますか？」

教務主任 「はい、廣瀬先生、なんででしょうか？」

担任先生B 「実は、私のクラスの木村君なんですが、一人まだ引き渡しができいてません。先ほど病院経由で連絡が入りまして・・・。」

教務主任 「病院？」

担任先生B 「そうなんです。実は木村君のお父さんが仕事中に地震にあつて、エレベーターに閉じ込められたそうなんです。」

教務主任 「ええ？それは大変ですね。で、木村君のお母さんの方はどうなの？」

担任先生B 「実はお母さんは九州に出張中で、今日は戻つてこられないそうです。」

教務主任 「いずれにしても、そういう話は他にも出てきそうだから、校長先生と教頭先生にも相談しましょう。それらの対応と、まだ残っている児童の食事やトイレとか、色々と考えておかないといけませんね。検討させてください。」

担任先生B 「わかりました。」

ナレーション「校長先生たちが対応について話し合っているころ、先生が引き渡してきたお爺さんとなにやら口論になっていて、担任の廣瀬先生が仲

裁に入りました。」

担任先生 B

「お爺さん、どうかなさいましたか？」

お爺さん

「どうするもこうするも、娘から電話があつて、孫を迎えにきたらその女の先生が、連れて帰っちゃだめだつて言うんだよ！」

担任先生 B

「あ、お孫さんを迎えにいらしたんですね。それでは、親御さんから依頼されたという書面とかメールとかありますか？」

お爺さん

「ああ？そんなのは無えけど、今日は出張で九州に行つてるから帰つて来れないつて言うんだよ。旦那は職場でエレベーターに閉じ込められたようだし、それで俺が迎えにきたんだけど……。じいちゃんでも、なんか証明するものがなくちゃダメなの？」

担任先生 B

「お孫さんは何年何組の誰ちゃんですか？」

お爺さん

「三年生の木村次郎だけど。」

担任先生 B

「えーと、三年生……。あ、木村次郎君は、ついさつき、同じ公団住宅の三浦さんという同級生のお母さんが一緒に連れて帰つてますよ。三浦さんは緊急時の引き渡し先になっていますし。三浦さんのお宅をお教えしたいのですが、個人情報も教えてもいいのかな。もしかして、おじちゃんのお宅はつくば市ではないんですか？」

お爺さん

「うちは隣の常総市、実家だよ、実家。娘は嫁に出たんだから。」

担任先生 B

「では、苗字も違うんですよね？次郎君の親族だと証明できるものつて何かあるんでしょうか？」

お爺さん

「ええ？じゃあなんだ、常総市の市役所に行つて娘の戸籍抄本でもとつて来いって言うのか？戸籍とれば証明できつけど、そこまでしないとダメなわけか？」

担任先生 B

「私ひとりでは判断ができないので、校長に相談してきます。」

お爺さん

「難しいことはわかんねーけど、余震も怖いし、女房も心配するから早くしてくださいよ！」

★この防災ラジオドラマの注意点★

このドラマはつくば市立吾妻小学校において、教職員とPTAの方々を中心に、災害シナリオを考える2回のワークショップ（2010年2月26日、2010年7月22日）を通じて議論された内容に基づいて作成されました。

災害が発生した場合には学校、児童、保護者、地域などの中で様々な局面が想定されますが、このドラマは、地域に発生する大規模地震を想定し、小学校での児童の引き渡しにおける様々な問題や課題について、先生の方々とPTAの方々が話し合い創作されたフィクションです。

ドラマの制作過程では、地域社会の実態を調べ、かつ、行政の防災計画や防災体制、被害想定、ハザードマップ、マニュアルなどの公式な情報を参考にしていますが、社会的なシミュレーション（模擬演習）として、また、今後の改善の視点を盛り込むなどの理由から意図的に事実と異なる設定をしている場合があります。